

アニマルセラピーを通じて

石浦 理恵

アニマルセラピーに参加し1年が過ぎました。

興味があったものの無知のままの参加でした。協会の方々の活動を見て学ぶことばかりで、あっという間の1年だったと思います。

セラピーに興味を持つきっかけを作ったのは私の祖父だと思います。もう他界しましたが、祖父が脳梗塞になり言語障害と半身不随になり自宅療養をすることになり、退院時は表情も乏しく、リハビリもかなり嫌がり家族と話すのも嫌がるのに何故か飼ってた犬には話し掛けたり、ゆっくりとしながらも乏しかった表情も豊かになったことが今も忘れる事ができません。

初めてセラピーに参加した時は、犬の行動も心配だし、自分は緊張してお年寄りの方には話し掛けることも出来ずただ膝の上に乗せてあげることで精一杯であっという間に時間が過ぎましたが、お年寄りの方はニッコリ笑ってくれて何とも言えない表情を見せてくれた瞬間がうれしかったです。

参加をしていく間に気が付いたことは人対人だと初めて会う時は何から話そうかどう接しようかと考えてしまうけど、犬達は上手に接すし、人間の緊張を解してくれて話のきっかけを作ってくれていると思いました。

セラピーの時間が終わる時間に「また来てね!!」「今日はありがとうね」と言われると参加した甲斐があったと思います。

これから先この活動に対したくさんの理解と協力をいただけるように頑張っていきたいと思いますので今後とも宜しくお願い致します。

能登半島沖地震に出動して

涌田 美樹

この度の能登半島沖を震源とする地震により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。亥年には何かが起こる?と年明けからそんな話題になっていた矢先に本当に現実になりました。

20日の石川県災害救助犬嘱託試験が終わりほっとする間もなく展覧会のシーズンに入っていた私は、忙しい日々を送っていました。

地震後少ししてやっと通じた電話は、「涌田さん県庁集合」。「ハイ」と返事をして県庁へ急行しました。焦る思いで県庁を出発し現地に向かったのですが、震源地に近づくにつれて家でテレビを見る光景とは全く違い想像を遥かに超えていました。「能登はやさしさ土までも」と聞きますが、土の臭いが車内まで漂ってきました。

度重なる余震にも怖がる様子もなく犬たちは真剣に良くやってくれたというのが実感でした。

門前役場に戻り、ゼロ解答なので、最後に隠れてもらい吠えさせて終わりました。

今回の経験を今後どの様に活かせるか課題・問題は山積みです。

災害救助犬が活躍することのない様、祈りつつ日々精進して参りたいと思います。